


獨協大学長 殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2022年4月20日	所属	経済学部経営学科
職名	教授	氏名	飯島優雅 
研修種別	1. 海外 <input type="checkbox"/> 2. 国内 <input checked="" type="checkbox"/>	研修種類	1. 長期 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 短期 <input type="checkbox"/>
研修期間	2021年4月1日 ～ 2022年3月31日		
学外における主な研修機関および訪問先 早稲田大学教育学部英語英文学科 澤木研究室			
出張目的または研究題目 大学英語教育の質保証指標モデルと EAP 教員コア・コンピテンシー枠組の開発			
資格	1. 令和3年度獨協大学学外研修員 (派遣) 2. 本学承認の学外研修員 (自費等) 3. その他 ()		
大学から支給された費用 (要清算書類)・補助金額		50 万円	
研修内容 (1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入) 1. 研修経過 研修期間中は、2019年度から4年間の予定で進めている科研費事業 (基盤研究(B)「大学英語教育の質保証指標モデルと EAP (English for academic purposes 学術目的の英語) 教員コア・コンピテンシー枠組の開発」19H01286) の3年目の計画に基づき、以下の3つのプロジェクトに取り組んだ。飯島が研究代表者として全体を統括し、研究分担者7名と研究協力者1名とともに進めた。			

提出先：所属学部長→学長→人事課 裏面につづく

(1) 大学での EAP 教育の質保証に向けたカリキュラム指標モデルの開発

英国の EAP 教員学会(BALEAP)が発表している、大学 EAP プログラム認証評価審査の基準となっている指標が、日本国内大学の環境にどの程度適用可能かを精査した。これをもとに国内版指標のプロトタイプを作成し、適用性を検証するために国内 EAP カリキュラム運営担当者数名に対し、アンケート調査を実施した。回答結果をもとに、プロトタイプに修正を加え、今後のアンケート調査拡大に向けた準備を行なった。

調査の進捗について、BALEAP 学会で発表を行い、学会プロシーディングズへ論文を投稿した。

また、BALEAP 学会の質保証評価部門の新しい代表（ノッティングガム大学）と、教員コンピテンシー部門の代表（グラスゴー大学）と Zoom 面談を行い、質保証基準の改訂版と日本での質保証の取り組みの実態について意見交換を行った。

(2) EAP 教員コア・コンピテンシー指標の開発

前年度から継続して、EAP 教員コア・コンピテンシー（知識・技能）指標のプロトタイプの開発に取り組んだ。プロトタイプについて現役の国内大学教員へのアンケートと聞き取り調査を行い、指標の日本国内での妥当性や有用性、改善点などについて意見を集めた。調査結果をもとに、プロトタイプに修正を加えた。

研究進捗と調査結果は、大学英語教育学会、JAAL in JACET 学会で発表した。まず、大学英語教育学会（オンライン開催）では、「EAP Quality Assurance and Teacher Training in Context: Suggestions from the UK and Taiwan for Japanese Higher Education」（文脈における EAP 質保証と教員養成：日本の高等教育への英国と台湾での実践からの示唆）と題し、シンポジウムを開催した。Zoom を使い、パネリストは国内外の先生方に依頼した（英国グラスゴー大学のキャロル・マックダイアミッド教授、台湾成功大学のシンメイ・カオ教授、科研の研究分担者である京都大学の金丸敏幸準教授、高千穂大学の山田浩准教授）。

また、JAAL in JACET 学会では、アンケートとインタビュー調査の結果を報告し、学会プロシーディングズへ論文を投稿した。

(3) EAP 教員養成の支援リソース整備

上記(2)の調査結果を利用し、視覚的に EAP 教員コンピテンシーの自己評価ができるオンラインツールの開発を始め、プロトタイプを作成した。JAAL in JACET 学会で発表を行い、聴衆からもフィードバックを得た。システム開発については、資材不足のため計画変更を行う必要が出たが、来年度に向けた準備を完了することができた。国内では大学英語教師個人個人の認証評価は行われていないが、EAP 教師を目指す英語教師のプロフェッショナル・ディベロップメントの参照枠組みとなることが期待される。

2. 研究成果発表の予定

研究成果の一部は、以下の学会での口頭発表と学会プロシーディングズ論文で発表した。2022年度は、大学英語教育学会、JAAL in JACET 学術交流集会での口頭発表と学会プロシーディングズに投稿を予定している。

- 1) 学会発表: Iijima, Y., Maswana, S., Watari, H., Yamada, H., Takahashi, S., and Kanamaru, T. (2021, 4). Developing Quality Assurance Benchmarks and Professional Development Schemes for EAP Education in Japan. *The BALEAP 2021 Conference*.
- 2) シンポジウム開催・発表: Towards Benchmarking EAP Quality Assurance and Teacher Competency in the Japanese University Context. JACET Hours EAP SIG Symposium, The JACET 60th Commemorative International Convention (Online, 2021, 8).
- 3) 学会発表: 飯島優雅, マスワナ紗矢子, 渡寛法, 山田浩, 高橋幸, 金丸敏幸, 寺内一, 田地野彰. (2021.12) 「日本の大学における EAP 教員を対象とした自己評価ツールの開発」 第4回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会 (オンライン)
- 4) 研究論文: マスワナ紗矢子, 渡寛法, 山田浩, 飯島優雅, 高橋幸, 金丸敏幸, 寺内一, 田地野彰. (2021). 日本の大学における EAP 教員を対象とした自己評価ツールの開発. *JAAL in JACET Proceedings*, 4, pp. 72-77.
- 5) 研究論文: Iijima, Y., Maswana, S., Watari, H., Yamada, H., Takahashi, S., and Kanamaru, T. (in review). Developing Quality Assurance Benchmarks and Professional Development Schemes for EAP Education in Japan. *The BALEAP 2021 Conference Proceedings*.

3. その他

あいにくのコロナ禍の影響で、当初予定していた英国や国内大学での現地聞き取り調査を行うことができず、また研究計画の進度を遅らせる必要もあったが、Zoom とメールでのやり取りを活用し、上記の通り、当初の研究活動計画を概ね終わらせることができた。研究分担者と協力者からの多大な協力に感謝している。

最後に、大学から学外研修の貴重な機会をいただいたことに心よりお礼申し上げます。研修での経験を、今後の教育・研究活動に還元したい。